

# 年々増加の一途をたどる難病に対抗する治療戦略を提供 潰瘍性大腸炎・クローン病部門を新設

## 【本件のポイント】

- 難治性疾患に精通している専門医が新規治療を提供
- 診療だけでなく病気の原因解明や治療法開発も目指す
- 11/6（金）14：00～オンラインで会見を実施

学校法人関西医科大学（大阪府枚方市 理事長・山下敏夫、学長・友田幸一）附属病院（病院長・澤田敏）は、潰瘍性大腸炎・クローン病を中心とした、腸に炎症を起こす炎症性腸疾患患者（IBD）さんに対して、疾患に精通している専門医がほぼ毎日診療する「潰瘍性大腸炎・クローン病部門」（部門長・長沼誠内科学第三講座教授）を設置しました。

安倍前総理の退陣で注目を浴びる潰瘍性大腸炎・クローン病は10～30歳代の比較的若い時期に発症し、消化管に炎症を起こして再発と軽快を繰り返す病気です。下痢、粘血便、腹痛などの腹部症状を認めることが多く、重症になると発熱や食欲不振、体重減少などをきたします。根本的な病気の原因が不明であるため、根本的な治療法が確立されておらず、患者の約1/3は従来の治療法に効果がない、もしくは頻回に再発を繰り返す難治例であり、現在国の難病に指定されています。

北河内エリアでは本学附属3病院（附属病院、総合医療センター、香里病院）を含め10病院が精力的に診療にあたっていますが、治療抵抗例や副作用例、難治例診療の拠点となり得る病院がなく、府県を超えて診療を受けている患者さんも多い診療空白エリアと言えます。本部門はこうした空白を埋めて、北河内地区における受け皿として展開していきます。

本部門ではほぼ毎日、豊富な知識と経験を有する専門医による外来診療を行います。また、消化管外科や内視鏡センター、放射線科と連携して患者さんに適した診断と活動性評価を行い、速やかに治療方針を患者さんと相談しながら決定していきます。近年多くの生物学的製剤や低分子化合物などが開発されてきていますが、本部門では基本的な治療薬を大切にしながら、適切な時期・適正な症例に対して生物学的製剤などの新規治療法を使用することにより患者さんの生活の質の改善につとめます。

また診療だけではなく、発症や増悪の原因が明らかになっていない潰瘍性大腸炎・クローン病に対して、厚生労働省研究班における治療指針作成委員のプロジェクトリーダーである部門責任者のもと、基礎研究部門や臨床研究支援センターと連携しながら基礎研究・臨床研究を推進し、病因・病態解明を行います

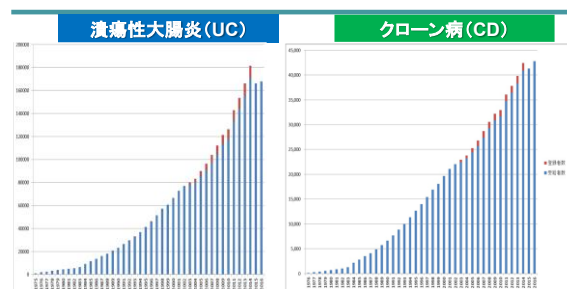
## 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（清水）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1


電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

IBD患者数推移（医療受給者証・登録者証交付件数）



	大阪府(平成26年度)	東京都(平成26年度)
UC	12,688	3,705
CD	2,962	784

## 会 見 概 要

日 時	2020年11月6日（金） 14：00～15：00	
U R L	<a href="https://00m.in/UjF9b">https://00m.in/UjF9b</a> ※上記から事前参加申込みをお願いします。会見場 URL は後日、お送りいただいたメールへご案内いたします	
出席予定者	■附属病院 難病センターセンター長 薬師寺 祐介 潰瘍性大腸炎・クローン病部門部門長 長沼 誠	
発表予定	<第1部> 14：00 ご挨拶・難病センター概要説明（薬師寺センター長） ご挨拶・部門概要説明（長沼部門長） 14：15 潰瘍性大腸炎・クローン病の治療と北河内の現状について 14：35 質疑応答	

## 別 添 資 料

### ■ 「潰瘍性大腸炎・クローン病部門」設置の趣旨

潰瘍性大腸炎・クローン病ともに近年患者数が増加の一途をたどっており、現在全国で潰瘍性大腸炎は21万人、クローン病は4万人が罹患し、この20年で10倍に増加しています。また、大阪府（2014年度）では潰瘍性大腸炎が約1.3万人、クローン病が3千人、近隣の京都府でもそれぞれ3,700人、800人と、同様に増加傾向にあります。加えて治療抵抗例、副作用例、難治例などが数多く存在しているのが現状です。関西医科大学難病センター 潰瘍性大腸炎・クローン病部門の開設によって、北河内地区における基幹病院として両疾患の診断困難例や難治例を中心に、本部門が受け皿になることが期待されています。

診療経験豊富な専門医が基本治療を大切にしながら、難治例については生物学的製剤や低分子化合物などの新規治療を取り入れ、また患者さんの負担を考えながら診断・活動性を評価するために様々な検査をおこないます。それぞれの患者さんの病状や生活形態なども考慮しながら、診療に取り組みます。

#### 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（清水）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

## ■「潰瘍性大腸炎・クローン病部門」の特徴

### 1. 難治例に対する経験が豊富

潰瘍性大腸炎・クローン病の約1/3は難治例ですが、難治例に対する治療法はこの10年で多くの治療法が開発されてきました。血球成分吸着除去療法・抗TNF $\alpha$ 抗体製剤（潰瘍性大腸炎では3種類、クローン病では2種類）、抗インテグリン製剤、抗IL-12/23抗体、ヤヌスキナーゼ阻害剤（潰瘍性大腸炎のみ）、カルシニューリン阻害剤（潰瘍性大腸炎）など多くの生物学的製剤や低分子化合物も使用可能となり、症状の改善が認められる患者さんも増加しています。本部門では外来診療を中心に、これらの治療法を適切に使用するとともに、治療法に関する最新の情報をいち早く入手し、治療法の選択に生かしています。また入院した際には診断方法や治療方針について、カンファレンスや回診などを通じて複数の医師により相談しながら患者さんに提示するシステムを取っています。

### 2. 侵襲の少ない検査法

診断や客観的な炎症状態の把握のために行われる基本的な診断方法は血液検査と内視鏡検査ですが、これらの検査方法を適切な時期に苦痛の少ない方法で行うようにしています。また、炎症を評価するための侵襲性の少ない便検査を組み入れて診療に当たっています。さらに、クローン病の約70%は小腸に病変を認めますが、当部門はカプセル小腸内視鏡、バルーン小腸内視鏡、MRIによる小腸検査法（MRエンテログラフィー）の全てを施行できる関西でも数少ない施設です。活動度や患者さんの希望などにより、これらの検査法を適切に選択しています。

### 3. 患者さんのより良い生活のために

診断や治療の進歩に伴い、多くの患者さんが入院せずに外来診療ができるようになってきました。本部門は単に症状を改善させるだけでなく、学生生活、就労、妊娠、出産、育児などの日常生活がより充実するように、診療を通じてQOLの維持・向上をサポートしていきます。

クローン病では肛門病変や狭窄により手術を必要とする場合も少なからずあります。また重症・難治性の潰瘍性大腸炎では手術を要することもあり、外科医との連携は極めて重要です。消化管外科の外来は内科と同じフロアに存在し、また定期的な外科との合同カンファレンスを通じて治療方針を相談していることにより、内科と外科の垣根なく診療に専念することが可能です。さらには関節炎、結節性紅斑といった関節症状や皮膚症状などの腸管外合併症を認めることがあるのも両疾患の特徴です。関西医科大学ではこれらの腸管合併症に精通した膠原病内科、皮膚科の診療を受けることが可能です。

### 4. 病気の原因解明や治療法開発を目指す

両疾患ともにいまだ発症や増悪の原因は根本的に明らかになっていません。本部門では基礎研究部門や臨

#### 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（清水）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

床研究支援センターと連携しながら基礎研究・臨床研究を推進し、病因・病態解明を行っていく予定です。また、部門責任者の長沼誠は両疾患に対する厚生労働省研究班における治療指針作成委員のプロジェクトリーダーとして、治療法の標準化に関する公的業務を行なっていると同時に、日本医療研究開発機構(AMED)における難治例に対する治療法選択の適正化に関する研究「希少難治性疾患の診療に直結するエビデンス創出研究」を通じて治療選択における新規治療法の確立を目指しています。我々は上記の取り組みを通じて、今後患者さんの診療に反映させていきたいと考えています。

## ■「潰瘍性大腸炎・クローン病」とは

潰瘍性大腸炎・クローン病は炎症性腸疾患（IBD）と呼ばれ、体内の免疫の過剰・異常が引き金となって、消化管に慢性に炎症を生じる疾患です。10-30歳代に発症して、再燃（症状が悪くなること）と寛解（症状が改善したり消失すること）を繰り返すことが多いのが特徴です。潰瘍性大腸炎は主に大腸に炎症を起こし、粘血便、下痢、腹痛などの腹部症状を認め、重症になると発熱、貧血などが認められることもあります。クローン病は大腸以外にも小腸や肛門にも病変が認められ、下痢、腹痛、肛門痛などの症状が認められます。炎症が重症になると狭窄（腸管が狭くなること）や膿瘍（腹腔内に膿が溜まること）が認められ、入院や手術を要することもあります。根本的な治療法がないことから、国の難病に指定されていますが、近年診断や治療法の開発が進み、外来治療によって通常の生活ができる患者さんが増加しています。一方で多くの治療法が登場したからこそ、専門医師による診療、最適な治療戦略の選択がより重要です。

### 【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（清水）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

リリース先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、  
科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ

2020年11月2日

No. 00150

PRESS RELEASE



「潰瘍性大腸炎・クローン部門新設オンライン記者会見」【参加申込書】

学校法人関西医科大学 広報戦略室 行

FAX 送付先：072-804-2638

申込み URL： <https://00m.in/UjF9b>

ご出席に際しては 2020年11月5日（木）14：00 までにご連絡ください。  
オンライン会見参加の方法をメールにてご連絡差し上げます。

■オンライン申し込みは

URL： <https://00m.in/UjF9b>

※上記から参加申込みも可能です。また、資料の事前ダウンロードや  
質問の投稿もでき、当日の写真素材や会見映像も配信予定です。



貴社名： \_\_\_\_\_

御所属： \_\_\_\_\_

5

御芳名： \_\_\_\_\_

媒体名： \_\_\_\_\_

御連絡先： \_\_\_\_\_

電話： \_\_\_\_\_

FAX： \_\_\_\_\_

【必須】 Email： \_\_\_\_\_

【本件取材についてのお問合せ】

学校法人 関西医科大学 広報戦略室（清水）

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

電話：072-804-2128 ファクス：072-804-2638 メール：[kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp)